ちょっと聞きたいシリーズ③

「観点別学習状況の評価」とは！？　～実践者の様々な工夫の紹介～

学習指導要領解説＊1では、次のように示している。

児童生徒の一人一人の**学習状況を多角的に評価**するため、**各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが重要**である。一つの授業や単元、年間を通して、児童生徒がどのように学ぶことができたのかや、成長したのかを見定めるものが学習評価である。

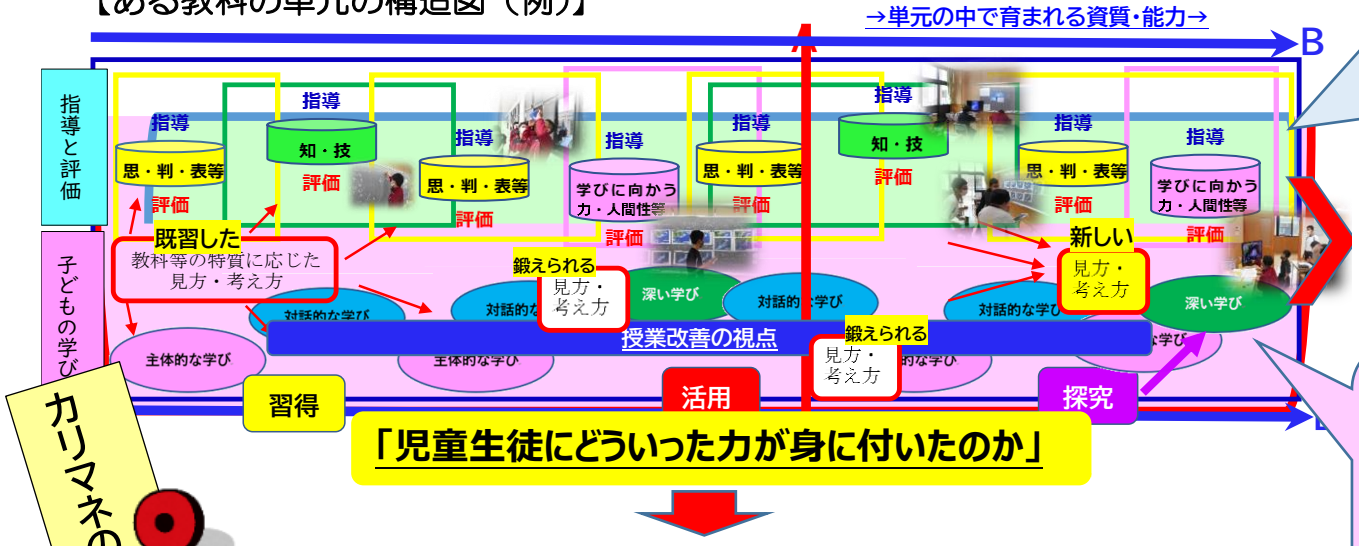
～中略～

なお、**教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である。**

＊1・引用：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）H30.　＊下線部等は相馬支援学校編集者による

まず、単元の構造について「単元とは、一体どんな構造なのか？」の図から考えていきたい。

【ある教科の単元の構造図（例）】



「児童生徒にどういった力が身に付いたのか」

教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組の推進！！

カリマネの出発点

観点別学習状況の評価をすることで、子どもが「何が身に付いたのか」を明確にしながら、**バランス良く資質・能力**を育むことができる。また、単元を実践中に行うことで、教師の指導の改善を図ることができ、「指導と評価」の一体化に気付く場面が生まれます。

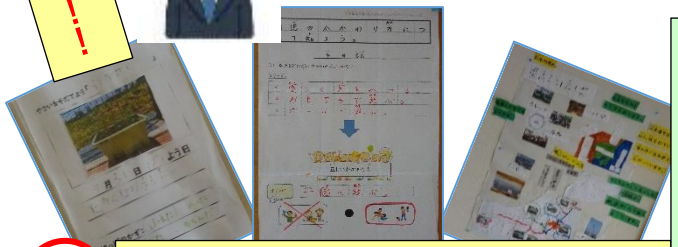
指導と評価の一体化

うまくいかなかった場合、単元構想なのか、他教科等とのつながりなのか、指導における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」などの意図的な設定が十分に機能していたかを考える必要もあります。

授業改善の視点

疑問！！

みんな、どうやって学習評価をしているの？　工夫はありますか？

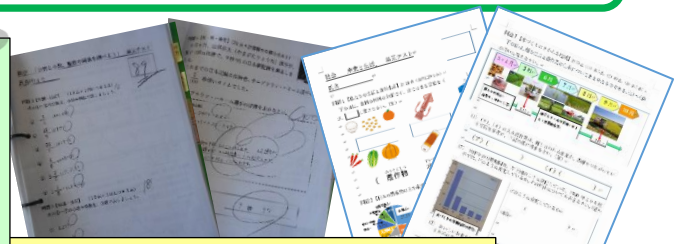


1　学習評価ができるワークシート・作品の工夫

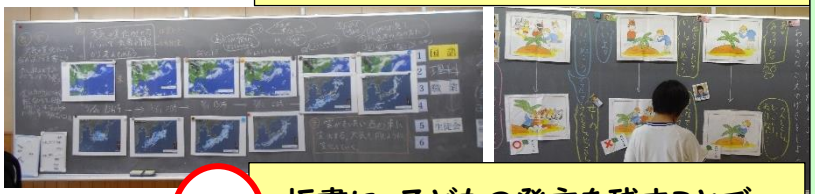
どれも、学習評価の際に、子どもの学びの足跡が分かるように工夫し、後から子ども自身が振り返る時、教師が振り返る時に役立ちます。

思い出すよりも時短で、確実に学習評価ができます。

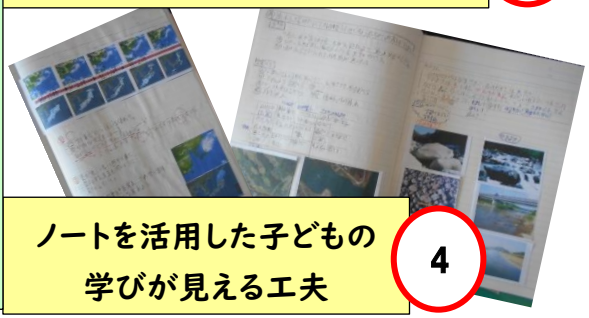
ただし、観点別学習状況が分かるように、ワークシートやノート指導、板書計画等がとても大切になってきます。



2　単元のまとまり毎の観点別に整理されたテストの工夫

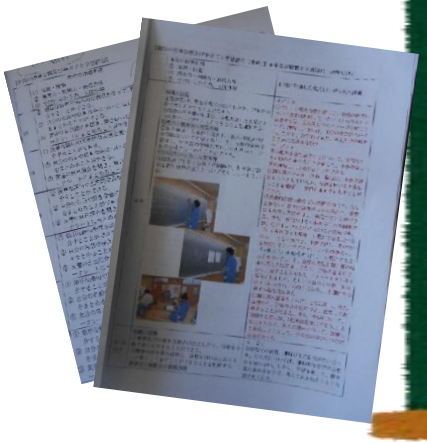


3　板書に、子どもの発言を残すことで、子どもの足跡が分かる工夫



4　ノートを活用した子どもの学びが見える工夫

…等



上記の①～④等を工夫を生かしながら、「毎時間、メモをとって最後に観点別学習状況の評価を整理していく先生」「2 週間に一回程度、もしくは単元の途中で、どのくらい育まれているのかを学習評価する先生」など、様々な工夫がなされていますが、学習評価をすると、子どもの学びに向き合い、自分の指導と向き合うことになります。そこから、「指導と評価の一体化」を実感し、授業の改善に生かすサイクルが多い先生ほど、どんどん授業が上手くなっていく印象です。もちろん、この学習評価を行えば、個別の指導計画とも連動しているので、業務の効率化も図られており、評価の時期でも苦労しません。

（文責：研修主任　富村和哉）